

例 言

- 1 本書は、平成21年(2009)5月19日から21日にかけて、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所と文化庁の主催の下、奈良文化財研究所平城宮跡資料館小講堂において開催した「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」(以下、「国際研究会」という。)の成果を取りまとめた報告書の日本語版である。
- 2 「国際研究会」の正式な報告書は、日本語版の本書と同時に刊行した“Paradise and Gardens in Eastern Asia – Final Report of the International Expert Meeting on Paradise and Gardens in Eastern Asia –”(以下、“Final Report”という。)であるのに対して、日本語による本書は、国内の研究者等への成果の普及のために、これを補足して編集したものである。したがって、その趣旨に基づき、日本人読者への便宜のため、英語で編集した“Final Report”には含まれていない記録・資料等を加えている部分等がある。
- 3 「国際研究会」は、奈良文化財研究所文化遺産部と文化庁文化財部記念物課との協議の下、奈良文化財研究所の中期計画に示された「古代庭園に関する調査研究」の一環として、奈良文化財研究所文化遺産部が企画し、事務局を務めた。また、事務局の主務は、文化遺産部の遺跡整備研究室(平澤毅、栗野隆)が景観研究室(清水重敦、恵谷浩子)の協力を得て務めた。また、国際研究会開催時の写真撮影及び音声録音も事務局によるものである。
- 4 「国際研究会」では、基本的に日本語を作業言語とした。資料については、各出席者の母国語(日本語、中国語、韓国語)により作成されたものを日本語に翻訳し、また、資料共有のため、併せて英語に翻訳したものを準備した。質疑応答や討論については、基本的に、各出席者が母国語で発言を行い、通訳を通じて日本語で行った。
- 5 本書は、冒頭のグラビア、序文、緒言のほか、『Ⅰ. 研究会の成果』と『Ⅱ. 研究報告』を主要なものとし、これに開催の記録や参考資料を収録した『Ⅲ. 付録』を加え、3部構成とした。
- 6 『Ⅰ. 研究会の成果』においては、会合最終日の2009年5月21日に検討し、概ね合意した文書について、後日、主として円卓を構成した8名の専門家が、用語や表現などの詳細を確認した結論文書を掲載した。『Ⅱ. 研究報告』においては、「国際研究会」における講演・報告・コメントに関する原稿を収録した。このうち、呂舟氏(中華人民共和國・清華大學教授)及び洪光杓氏(大韓民國・東國大學校教授)の原稿については、併せて原著も掲載した。『Ⅲ. 付録』においては、「国際研究会」開催の記録として、「開催概要」、「出席者名簿」、「開会・質疑応答・討論・閉会の記録」のほか、参考資料として「日本における浄土庭園の構成と年代」及び「仏国寺の蓮池に関する一考察」(洪光杓, 1994; 日本語訳)を掲載した。また、図版等については、講演者・報告者等から提供されたものを基本としつつ、一部については、追加・補足したり、新たに図版を起こしたりしている。さらに、編集の都合上、図版の採否やレイアウトについては、“Final Report”と異なる部分がある。なお、特に平等院の関係写真等については、宗教法人平等院のご理解とご協力を得て掲載した。
- 7 『Ⅲ. 付録』のうちの「開会・質疑応答・討論・閉会の記録」については、録音から日本語での発言及び日本語への通訳の音声を起こしたものを参照しながら、平澤毅が整理したものを掲載した。なお、各発言における言い回し等については、その趣旨の変更を伴わない範囲で修正等を加えた部分がある。
- 8 本書における年号の表記は、「平成21年(2009)」のように、「和暦(西暦)」とし、年度の西暦表示には、「平成21年度(FY2009)」のように、FY [Fiscal Year]を付した。
- 9 「国際研究会」のための資料等の翻訳、会合開催時の通訳、並びに、本書作成のために必要な資料等の翻訳については、一部を除き、株式会社コングレに委託した。
- 10 本書の編集は平澤毅が行い、栗野隆が補佐した。